は　じ　め　に

八戸市では 2012 年に連合町内会連絡協議会が発足し、町内会が新たな局面を迎えている。八戸市は 1929（昭和 4 年）に、八戸町、小中野町、湊町、鮫村が合併して誕生した市であり、当時の人口は 5 万 1529 人、世帯数も 8836 世帯にすぎなかった。その後八戸市は、館村、下長苗代村、是川村、館村、市川村、上長苗代村、豊崎村、大館村、南郷村を合併して今日にいたっており、人口は、1945 年には 7 万 9031 人、1955 年には 13 万 4258 人、1965 年には 19 万 7263 人へと増加し、平成期には二十数万人台を維持している（八戸市　2011）。この人口増加の背景には、合併、ベビーブーム、高度経済成長による産業発展と人口流入などがある。

当然、こうした人口増加には町内会数の増加も伴っているものと考えられるが、八戸市全体の町内会に関する資料は、時代を遡れば遡るほど残っておらず、八戸市の町内会の全体像は不明である。各町内会についても、町内会の設立時期を確定できない町内会も少なくない。より古くから存在する町内会であるほど、正確な記録をたどることは困難であるからである。しかし、一部町内会には記録が残っており、戦前から既に、生活の必要や親睦・交流を目的として、町内会が存在していたようである。たとえば、1926 年（昭和元年）には、湊地区の柳町町内会が発足しているし（湊柳町町内会　1986：30）、小中野の各地で昭和初期に複数の町内会が発足し、1933（昭和 8）年には、小中野町内連合会が結成されている（小中野町内連合会記念誌作成委員会　1995：3）。

また、戦後、人口の増加とともに、1960 年代後半から 1970 年代にかけて、旭ヶ丘、多賀台、白銀台、是川、岬台などの団地分譲がはじまり、これらにともなって新規に町内会が結成されたり、既存町内からの分離独立が起こったりすることで町内会が増えた。現在、八戸市には 469 の単位町内会および 38 の町会連合会が存在している。

2011 年 3 月の東日本大震災の影響は、沿岸部を中心に八戸市にも及んだ。津波によって、交通が寸断され、ヒト・モノ・情報といった面での支援が市からすぐに届かなかった地域もあったことから、震災によって、地域社会や町内会の必要性があらためて認識された。しかし、このことはまた、町内会の困難を浮き彫りにもしている。つまり、当然、町内会は地域における重要な組織であるだが、その活動が

生活全般に及ぶものであり、さらに、環境、ゴミ処理の支援、防犯、防災、施設維持管理のなど時代毎のイシューを取り込んでいくがために、必然、負う荷が重くなっている。取り組むべき課題が増える反面、多くの町内会では、会員・役員の高齢化、担い手や住民からの関心不足、加入者の減少などに苦しんでいる。町内会の課題を即座に解決する一般的な処方薬はみあたらないが、八戸市における現在の町内会の現状をとりまとめた本報告書が、何らかのかたちで、町内会の理解促進と活性化に役立てばと願ってやまない。

最後になったが、本調査を実施するにあたってご支援いただいた八戸市総合政策部市民連携推進課および八戸市町会連合会会長をはじめとする連合町内会連絡協議会理事の皆様、そして私たちの厄介なアンケート調査に答えてくださった各町内会長に御礼を申し上げたい。

参考文献

小中野町内連合会創立六〇周年記念誌作成委員会編、1995『小中野町内連合会創立 60 周年記念誌』小中野町内連合会。

八戸市、2011『八戸市勢要覧 2011』八戸市。

湊柳町町内会、1986『町内発足 60 年記念誌』湊柳町町内会。

2014 年 3 月

齊藤綾美